

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-27

修正案

(発行年 / Year)

1910

祝

修正案

梅 謙次郎 提出

第七百十八條ヲ削除シ第七百十二條第二項トシテ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ハ不法ノ原因ノ為ニ給付ヲ受ケタル者ニモ亦之ヲ適用ス

(別案)第七百十八條ハ之ヲ削除ス

(理由)第七百十八條ニ於テハ既ニ法典財産編第三百六十七條第二項ノ意義ヲ採用セリ蓋シ此主義ヲル羅スニ未人ノ

唱道スル所ニテ或ハ *ex turpi causa, nullus actus*

publicantis causa (醜事ニ在リテハ占有者ノ利ニ帰ス) 或

ex novo auditu, turpitudine, non obligans (何人ト雖

己角己ノ醜事ヲ採用スルトモ之ヲ採用セム) 或ハ

ex turpi causa, turpitudine, stat in. de 或ハ醜

事均キヤトハハ二取左権ニ) ト云ヒ現行法

於テモ瑞西債務法(索避民法)ノ如キハ此主義ヲ採用シ

我邦ニ於テモ一般彼有名ナル角石事件ニ付キ大審

院ハ此主義ヲ採用シタルカ如シ然リト雖モ本頁ハ之ニ

服従スルコト能ハス請フ其理由ヲ略陳セン

一、法律ハ不法行為ヲ禁スルノ目的ヲ以テ之ニ法律上ノ

強制力ヲ付セス其履行ヲ法廷ニ請求スル者アルトキ

ハ法官ヲシテ其請求ヲ御ケシムルニ非スヤ若シ然ラハ

一旦之ヲ履行シタル後ト雖モ其履行ヲ無効トシ既ニ

給付シタルモノヲ取返スコトヲ得セシメスシハアルヘカラズ

然ラズレテ之ヲ取返スコトヲ許サ、ルトモハ不法行為ノ

當事者ハ速ニ其行為ノ履行ヲ完了シ以テ法網ヲ脱

セント謀ルコト多カルヘシ是レ間接ニ不法行為ヲ獎

屬スルモノト謂フヘシ殊ニ狡猾ナル者ハ相手方ヲシテ
其履行ヲ為サレシ自己ハ則チ自己ノ義務ノ履行セ
ズ以テ不正ノ奇利ヲ博スルコトヲ得ヘシ況ヤ普通ノ法
理ニ於テモ不法ノ目的ヲ有ル法律行為ヲ以テ無効
トスル以上八九七ノ當事者間ニ債權債務ノ關係ヲ
生スル故ニ所謂履行ハ債務ノ履行ニ非ス即チ債
務ヲ弁済ナルニ於テリヤ

二 交付主義ノ物ヲ全城或モ其ノ為スルハ
目ノ不法行為ヲ企テシル者ハ其不法行為
ノ理由トシテ過剰ノ保護ヲ仰グベシ故ニ
此ハ鐵面及ニ慈悲レト曰フニ在リ然レト
相ニ其若ハ必ズモ其不法行為ノ理由ト
シテ過剰ノ保護ヲ仰グベシ即チ人例ハ持定

物ノ引渡シタル場合ハ如キハ自己ノ所有
物ノ故ニ他人ノ財ニ在ルヲ以テ其取返
シ請求セシメ相方亦ハ是レ之ヲ返還セシ
メテト欲セバ即チ不法行為ヲ援用シテ之
ヲ拒マサルヘカラス此場合ニ於テ相方
方ノ意ニ自己ノ不法行為ヲ理由トシテ保
護ノ保護ヲ仰グル鐵面及ニ慈悲ノ如ク又
其不法行為ノ進行ヲ法廷ニ請求スル者ヲ
以テ故ニ之ヲ保護スルハ不法ノ範圍ヲ有ス
ル法律行為ヲ無効トセル法律ノ規定ト直
接ニ矛盾スルモノト謂ハサルヘカラス殊
ニ法律ノ規定ノ結果ニ因リ當事者ノ一方
ノ自己ノ不法行為ヲ援用シテ其行為ヲ無

奴^レト^レト^レヲ^レ主^レ張^ルス^ルコト^レノ^レ到^ル底^也
 カ^ルル^{コト}ヲ^レ得^ルヤ^ル所^ニシ^テ例^ハ一^ノ男^子ノ
 一^ノ女^子ヲ^レ欺^キ既^ニ正^妻アル^{コト}ハ^ハ不^可思^フ
 女^子ト^レ結^婚ノ^式ヲ^レ舉^ゲタル^場合^ノ和^平後
 日^其男^子ハ^不婚^ノ因^リ且^レ結^婚ノ^無効^{ナル}
 コト^ヲ主^張ス^ルコト^ヲ得^ルハ^ハ固^ク論^ヲ
 俟^ツス^又不^法行^為ノ^當事^者ヲ^レ相^手方^{ヨリ}
 其^レ行^為ヲ^レ復^行ヲ^レ請^ホス^ルニ^當リ^其行^為ノ^不
 法^{ナル}コト^ヲ理^由ト^シテ^其請^ホス^ル事^ヲ却^テル
 不^可得^ルコト^ヲ理^由ト^シテ^既ニ^給付^シテ
 ル^モノ^ヲ取^戻ス^{コト}ヲ^レ得^ルハ^ハ故^テ怪^シク
 足^リナ^ルナ^リ

夫^レハ^ハ後^取
 切^リコ^トノ^レ人
 自^レレ^レカ^ラコ^トノ^レ人
 取^リコ^トノ^レ人
 取^リコ^トノ^レ人

三^ニ人^共謀^シテ^レ不^法行^為ヲ^レ企^ツル^場合^ニ
 於^テハ^ハ兩^人共^ニ憎^ムハ^シト^雖モ^レ其^一人^カ
 他^ノ一^人ヲ^レ信^ジテ^之ニ^金錢^其他^ノ物^ヲ交
 付^シタル^ニ他^ノ一^人ハ^初ヨ^リ不^法ナル^コ
 ト^ヲ知^リテ^レ企^テタル^行為^ノ不^法ナル^{コト}
 ヲ^口實^トシ^テ其^レ約^束ヲ^守テ^ス又^其受^取リ
 タル^モノ^ヲ返^還セ^ザル^ハ其^レ受^取リ^{タル}者
 其^レ交^付シ^{タル}者^{ヨリ}一^層憎^ムハ^キコト^モ
 シ^然ル^ニ交^對主^義ニ^據テ^ハ其^レ理^由ハ^免レ^ニ
 角^其結^果ニ^至リ^テハ^一層^憎ム^ハキ^者ヲ^レ保
 護^シテ^却テ^之ヨ^リ情^ノ輕^キ者^ヲ酷^待ス^ル
 コト^{ナル}ハ^キコト^ニ
 以上ノ^理由^ニ據^リ本^負ハ^第七^百十^八條^ニ

取リタル主義ニ左祖スルコト能ハス蓋シ
羅馬法ニ於テハ前ニ掲ケタル格言行ハレ
正ニ反對主義ヲ取リタルカ如キニ佛國ニ
於テハ明文ナキニ拘ハラズ今日ノ學說裁
判例共ニ本質等ノ主義ニ傾向セルカ如シ

(Éléments de droit naturel, Cours analytique de Code civil,

t. V, n° 479 bis; Morandi, Explication du Code civil,

t. IV, art. 1133, II; Laurant, Principes de droit civil, t. XVI,

n° 1874; Chigny, Cours de droit civil, t. II, n° 877; Demolom

by, Cours de Code Napoléon, t. XVII, n° 322; Périer, 1^{re}

évol. 1844; Cass, 30 juillet 1844; Roy, 1^{er} août 1844; Caen,

18 janvier 1845; Limoges, 18 avril 1845; Roy, 17 décembre

1845; Cass, 5 janvier 1846; Roy, 10 février 1846; Paris,

31 mai 1879; Toulouse, 8 juillet 1890; Cass, 11 janvier 1883

Cass, 25 janvier 1887. — En sens contraire, Chabry et Poir,

Cours de droit civil français, t. II, § 472; note a de 23

Paris, Sur cette conteste, t. I, n° 683; Cass, 15 décembre 1878.)

白耳義民法草案(一)の八五)ニハ不法ノ原因

ノ為メニ給付シタルモノハ之ヲ取戻スコ

トヲ得ルト云ヒ其説明中明カニ本質等ノ

主義ヲ採用セリ 漢國民法(一七四)ニハ反

對ノ主義ヲ採レトモ是レ不能ノ原因

ノ為メニ給付シタルモノニ付テモ同ニキ

所ニシテ蓋モ任意ニ履行ヲ為シタルハ贈

與ノ意思アリタルモノト視タルカモシテ

チグロ民法(六〇〇)ニ於テハ原則トシテハ

本質等ノ主義ヲ採用シ唯其給付ヲ受ケ

タル者之ヲ受クルニ當リテ不正ノ意思アリ之ヲ與ヘタル者ハ不正ノ意思ナキトキニ限リ取戻ヲ許シ雙方共ニ不正ノ意思アリタルトキハ之ヲ寺院ニ納メシム普漏西園法(一部一六章二〇五、二〇六)ニ於テハ之ヲ國庫ニ没入ス本負ノ信スル所ニ據レハ若シ假ニ之ヲ與ヘタル者ニ取戻權ナシトモハ寧ロ之ヲ國庫ニ収ムルハ多少理由ナキニ非サレトモ之ヲ受ケタル者ニ與フルニ至リテハ毫モ其理由ヲ發見スルコトヲ得莫太修正案ヲ提出スルノ止ムコトヲ得サル所以ナリ

本負ノ信スル所既ニ斯ノ如シト雖モ現ニ反對説ヲ唱フル者尠カラサル以上ハ明文ニ以テ大門頭ヲ決スルヲ愈レリトス然リト雖モ若シ明文ナケレハ本負等ハ必ス本修正案ノ如ク之ヲ決スルハ當然ナリト信スルヲ以テ反對ノ明文アラニヨリハ寧ロ全ク明文ナキノ愈レルニ如カス是レ別案トシテ單ニ第七百十八條削除ノ説ヲ提出シ以テ委員諸君ノ取捨ニ一任セント欲スル所以ナリ

第七百

三十條第二項ハ之ヲ削除ス

(理由)本條ノ規定アルトキハ加害者ノ常ニ被害者ノ過失ヲ口實トシ以テ其責任ヲ免レント欲スルノ虞アルヲ以テナリ